

第 33 回キャタリシススクール 講師紹介

窪田 好浩（くぼた よしひろ）先生 校長

横浜国立大学大学院工学研究院機能の創生部門教授。昭和 38 年生。平成 4 年東京大学大学院薬学系研究科製薬化学専攻博士課程修了。博士（薬学）。化学技術研究所，物質工学工業技術研究所（いずれも現産業技術総合研究所）研究員（その間平成 6～7 年カリフォルニア工科大学客員研究員），平成 8 年岐阜大学工学部助教授，平成 16 年横浜国立大学大学院助教授を経て，平成 19 年より現職。平成 13 年東海化学工業会賞，平成 14 年石油学会奨励賞受賞。

趣味＝花や空の撮影，ワインや日本酒の化学的テイスティング，スポーツ観戦；

「する」方でこれまでに熱中したスポーツは，野球（10 代以前），バスケット（中・高），オリエンテーリング・駅伝（大学），スキー（大学院以降）。現在は運動不足。

受講生に対して一言

「化学的相互作用に伴う構造と機能の相関は，触媒化学だけでなく自然科学を支配する共通概念であるという見方で物事を捉えています。」



山中 一郎（やまなか いちろう）先生

東京工業大学物質理工学院応用化学系教授。昭和 35 年生。平成 3 年東京工業大学理工学研究科化学工学専攻後期博士課程修了。工学博士（東京工業大学）。平成 3 年東京工業大学工学部助手，平成 9 年同助教授，平成 19 年准教授（改称）を経て，平成 25 年教授（現職）。平成 8 年度触媒学会奨励賞，平成 11 年度石油学会奨励賞，2019 年度触媒学会学術賞受賞。

趣味＝宇宙に関する情報収集，サッカー観戦，かつては自称スポーツマン（バスケット，野球，クライマー，スキー）。

受講生に対して一言

「触媒は化学反応を能動的に制御できる唯一の仕掛けです。」



佐藤 智司（さとう さとし）先生

千葉大学大学院工学研究科共生応用化学専攻教授。昭和 36 年生。昭和 60 年名古屋大学大学院工学研究科修士課程修了。昭和 61 年同大学大学院工学研究科博士課程中退。平成 4 年博士（工学）。昭和 61 年千葉大学工学部工業化学科助手。同大講師，助教授，教授を経て，平成 19 年より現職。平成 9 年度触媒学会奨励賞，平成 29 年度触媒学会学会賞（学術部門）受賞。

趣味＝ボウリング，スキー，サッカー観戦。

受講生に対して一言

「“実際に触媒を作る”上での科学の部分を実感していただければ幸いです」



小倉 賢（おぐらまさる）先生

東京大学生産技術研究所教授。昭和 44 年生。平成 10 年早稲田大学大学院理工学研究科応用化学専攻博士課程修了。博士（工学）（早稲田大学）。平成 9 年早稲田大学理工学部助手，平成 10 年日本学術振興会特別研究員，平成 13 年大分大学工学部応用化学科研究員，平成 14 年東京大学大学院工学系研究科化学システム工学専攻助手，平成 16 年東京大学生産技術研究所助教授（准教授）を経て，平成 28 年同教授（現職）。

趣味＝お城巡りをする事。

受講生に対して一言「研究も人生も横軸探しだと思っています。縦軸は目的が決めてくれます。筋の良い横軸とリファレンスを提示できることが目標です。」



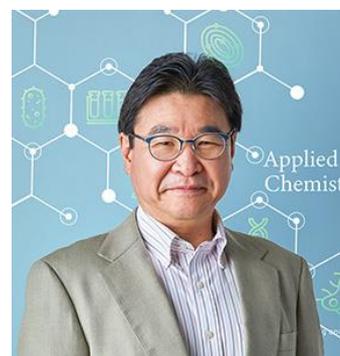
富重 圭一（とみしげ けいいち）先生

東北大学大学院工学研究科応用化学専攻教授。昭和 40 年生。平成 6 年東京大学大学院理学系研究科化学専攻博士課程中途退学。平成 9 年博士（理学）（東京大学）。平成 6 年東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻助手，平成 11 年同講師，平成 13 年筑波大学物質工学系講師，平成 16 年筑波大学大学院数理解物質科学研究科物性・分子工学専攻准教授を経て，平成 22 年より現職。平成 15 年度触媒学会奨励賞受賞、令和元年度同技術進歩賞共同受賞、令和 3 年度同学会賞学術部門受賞。

趣味＝図書館の本を借りて多読する，近県巡り。

受講生に対して一言

「吸着や反応速度の基礎知識も触媒開発には欠かせないツールになります」



福原 長寿（ふくはら ちようじ）先生

静岡大学学術院工学領域化学バイオ工学系列教授。昭和 62 年東北大学大学院工学研究科博士課程前期修了。博士（工学）（東北大学）。昭和 62 年工学院大学工学部助手，八戸工業大学工学部助教授，同教授を経て，平成 19 年より現職。令和 3 年から静岡大学カーボンリサイクル技術研究所所長（兼任），平成 17 年度化学工学会研究賞，令和 2 年度化学工学会論文賞。

趣味＝ジョギング，パスタ料理作り。

受講生に対して一言

「SDGs の目標達成，COP21 約束草案の実現，2050 年 CO₂ 排出ゼロ宣言など，触媒が果たすべき役割の重要性が増してきました。触媒反応工学では，そのような目標達成に向けた“触媒の実装”における大切な理論と考え方をわかりやすく講義します。」



室井 高城（むろい たかしろ）先生

アイシーラボ代表，産業技術総合開発機構(NEDO) 技術戦略センター客員フェロー，1968 年福島高専工業化学科卒。住友金属鉱山株式会社入社。昭和1969 年日本エンゲルハルト株式会社(現エヌ・イーケムキャット株式会社)入社。2003 年同執行役員。2006 年触媒学会副会長。2008 年 BASF ジャパン 主席顧問。2005 年触媒学会功績賞。一貫して工業触媒の開発に従事。最近の著書「触媒からみる炭素循環技術 2021」シーエムシー・リサーチ。

趣味＝水彩画，野草。

受講生に対して一言

「工業触媒は目的ではありません。役に立たなければ何の意味もありません。」



白井 誠之（しらい まさゆき）先生

岩手大学理工学部化学・生命理工学科化学コース教授。昭和 39 年生。平成 5 年東京大学大学院理学系研究科博士課程修了，博士（理学）。東北大学助手，同助教授，産業技術総合研究所研究チーム長を経て，平成 25 年より現職。平成 9 年度トーキン科学研究奨励賞，平成 9 年原田研究奨励賞，平成 13 年日本粘土学会奨励賞受賞。

趣味＝温泉。

受講生に対して一言

「化学反応を制御できる触媒及び反応場設計を行っています」



野村 淳子（のむら じゅんこ）先生

東京工業大学企画本部ダイバーシティ推進室マネージメント教授。昭和 38 年生。平成 3 年東京工業大学大学院総合理工学研究科電子化学専攻博士後期課程修了，理学博士。平成 3 年東京工業大学資源化学研究所助手，平成 18 年同助教授，平成 19 年同准教授，平成 28 年東京工業大学科学技術創生研究院化学生命科学研究所准教授，令和 4 年より現職（平成 25-29 年 日本学術振興会さきがけ研究員）。平成 10 年度手島記念研究賞・研究論文賞，平成 11 年度触媒学会奨励賞，第 5 回（2000 年）日本女性科学者の会奨励賞，平成 13 年度石油学会奨励賞，The Best Article of the Month, Bulletin of the Chemical Society of Japan, (2004) No. 9，平成 26 年度化学工学会女性賞受賞。

趣味＝ダイビング（南の島専門），読書，良く冷えた生ビール。

受講生に対して一言

「“なんでこんなことが起こるのか”を調べることも楽しいですよ」



里川 重夫（さとかわ しげお）先生

成蹊大学理工学部理工学科教授。昭和 38 年生。昭和 63 年早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了。平成 11 年博士（工学）（早稲田大学）。東ソー株式会社、東京ガス株式会社勤務を経て平成 18 年度成蹊大学理工学部助教授、平成 19 年度より現職。平成 10 年度日本粘土学会奨励賞、平成 17 年度触媒学会奨励賞、平成 28 年度および 30 年度石油学会論文賞、平成 30 年度触媒学会教育賞。

趣味＝旅行、食べ歩き、鉄道、ドライブ、ものまね。

受講生に対して一言

「劣化現象を正しく捉えることは触媒の工業化に必要不可欠です」



山松 節男（やままつ せつお）先生

ビック情報株式会社顧問。工学博士。首都大学東京都市環境学部非常勤講師。神奈川大学非常勤講師。JST 先端的低炭素化技術開発（ALCA）辰巳 PJ 分科会委員。NEDO 水素利用等先導研究開発事業 外部委員。昭和 25 年生。昭和 50 年東京大学大学院工学系研究科合成化学専攻修士課程修了。同年旭化成工業（現旭化成）株式会社入社。平成 22 年旭化成ケミカルズ株式会社退職。平成元年度日本化学会化学技術賞、平成 12 年度日本化学工業協会総合賞、平成 14 年度触媒学会賞（技術部門）、平成 18 年度中国地方発明賞発明協会会長奨励賞、平成 20 年度全国発明表彰、平成 20 年度日本化学会化学技術賞、平成 21 年度スガウエザリング技術振興財団科学技術賞受賞。

趣味＝（１）レシピ通りに正確・精密に料理を作りレパートリーを拡げること、（２）24 時間フィットネスクラブで汗を流すこと。

受講生に対して一言

「"触媒研究"を対象にお話しますが"研究・開発への向き合い方"、"考え抜く力&人を動かす力"の何たるかを感じ取っていただければと思います。」

